

委員会視察成果報告書

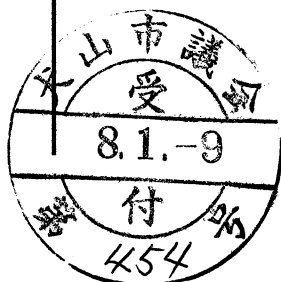
令和8年1月 9日

犬山市議会議長 大沢 秀教 様

議員名 5番 小川 隆広

下記のとおり、視察の成果を報告いたします。

(1) 視察年月日	令和7年12月17日(水) (0泊 1日)
(2) 視 察 地	愛知県犬山市 (犬山市立図書館)
(3) 視察の種類	常任・特別 委員会 (民生文教委員会)
(4) 視 察 成 果 (視察地ごとに記入)	本市の市立図書館の視察を行った。 冒頭、当局より市立図書館の運営状況、取り組みなど利用状況の説明を受け、質疑応答を実施した。現状、本市の図書館は市直営として、非常に高い水準での図書館運営ができていると実感した。特に読書の普及啓発に力を入れていることは配布しているブックガイドからも感じ取ることができた。それぞれの学年に合わせて作成されたブックガイドは、興味を持って手に取ってもらいやすいデザインで、表紙の絵がつなぎ合わせられるアイディアにもセンスを感じた。また楽田ふれあい図書館や対象校(園)への団体貸し出しなど、広域連携や学校図書館との連携の強化を実感した。図書館の視察研究を通じては、「活字離れ」にも問題意識を持って取り組んできたが、本市の読書通帳配布の取り組みは、先のブックガイドと合わせ、活字に親しんでもらうための取り組みとして期待できる。創意工夫を凝らした図書館行事も、まずは図書館に来て親しみをさせていただくのに大変重要な事業であると感じた。犬山子ども司書講座は、すでに本市でも子ども司書について取り組まれているということで大いに期待したい。ICT化も、蔵書の効率的な管理に寄与していると認識した。 さて、平成2年に竣工した市立図書館の建物そのものの陳腐化は否めないと思った。現状、蔵書には影響ないが雨漏りは気になるところだった。間取りの限界も感じた。子ども読書空間やボランティアルー



	ム、授乳室などリニューアルされた部分もあるが、建物の間取りそのものは大きく変更できないことから、今後、ニーズに応えていこうと思うとどこまでやれるのか心配である。
(5) 犬山市に 対する提言	今回の視察では市直営の図書館の可能性をしっかりと感じる事ができた。令和7年10月の岡山県高梁市立図書館の視察では、多機能を持たせるには市直営では限界があるかとも感じたが、比較することで、まずは本市として身の丈にあった図書館運営を考えるべきだと思った。 同、岡山県高梁市立図書館の視察では、あらためて中高生の学習ニーズに合わせた学習スペースのあり方について考えさせられた。現在、市役所のフリースペースで多くの中高生が学び合いをしているが、市立図書館に現在の学習室とは違った学び合いのできる学習スペースが必要だと感じた。 郷土の蔵書について少なく感じた。犬山の郷土愛を育むといった観点から郷土の蔵書の充実が必要と感じた。 高校生との意見交換会を通じては図書館併設のカフェについて提案いただいております、ニーズは高いものとするが、今後、本市の図書館をどうしていくのか、将来像の中で慎重に研究すべきと考える。 今回の犬山市立図書館の視察で、本市は高い次元で運営していると感じている。提言内容は、今後研究していく上で考えていただきたい。なお、岡山県高梁市立図書館の視察の際に提言させていただいたように、犬山市立図書館は、すでに築35年を経過していることから、建て替えなどの長期目線の計画は早い段階から取り組むことを考えていただきたい。